

## 平成 23 年度(社)砂防学会通常総会並びに研究発表会「神奈川大会」

通常総会並びに研究発表会「神奈川大会」実行委員会

平成 23 年度(社)砂防学会通常総会並びに研究発表会を、下記の要領で開催いたしますのでお知らせします。参加および宿泊の申し込み手続き等の詳細につきましては、「砂防学会誌」第 63 巻 5 号（平成 23 年 1 月 15 日発行予定）に掲載の予定です。多数のご参加と研究発表をお願いいたします。

なお、「砂防学会研究発表会」は、技術士 CPD（継続教育）履修実績として申請することができます。

### I . 平成 23 年度(社)砂防学会通常総会並びに研究発表会「神奈川大会」実施要領

- 1 . 期 日 平成 23 年 5 月 18 日(水)～20 日(金)
- 2 . 会 場 神奈川県民ホール  
(〒231 0023 神奈川県横浜市中区山下町 3 1 Tel : 045 662 5901(代))
- 3 . 日 程 (下記日程表のとおり)

	9:00	9:30	10:30	11:30	12:00	12:30	13:00	14:00	14:30	15:00	16:00	16:30	17:30	18:30	20:00
5 月 18 日(水)		受付	特別講演	昼食	研究発表会 企画・テーマ別セッション		研究発表会 テーマ別セッション		ポスターセッション・企業展示・行政展示						
5 月 19 日(木)	研究発表会			昼食	コアタイム	研究発表会		総会							
5 月 20 日(金)	受付	現地研修会													

#### 4 . 現地研修会

現在計画中で、詳細は「砂防学会誌」第 63 巻 5 号でご案内いたします。

#### 5 . 参加費

「砂防学会誌」第 63 巻 5 号でご案内いたします。

#### 6 . 参加および宿泊等申し込み

「砂防学会誌」第 63 巻 5 号でご案内いたします。

#### 7 . 会場までの交通機関

「砂防学会誌」第 63 巻 5 号でご案内いたします。

#### 8 . お問い合わせ先

平成 23 年度(社)砂防学会通常総会並びに研究発表会「神奈川大会」実行委員会事務局

〒231 8588 横浜市中区日本大通 1

神奈川県県土整備局河川下水道部砂防海岸課内  
(担当者) 山中・秦

TEL : 045 210 6511 (直通)

FAX : 045 210 8955

### II . 平成 23 年度砂防学会研究発表会要領

#### 1 . 発表者の資格

砂防学会員に限り、(ただし、グループでの発表の場合は、代表者が会員であることが必要です。)原則として、発表者一人あたりの発表件数は一般口頭発表・ポスターセッションを通じて、どちらか一件とします。(なお、連名の場合はこの限りではありません。)

また、企画セッション・テーマ別セッション関係については、重複制限から除外するものとします。

#### 2 . 発表内容

土石流、山崩れ、表面侵食、地すべり、地震や噴火に起因した土砂流出等の土砂災害およびそれらの防止工事、斜面緑化、森林水文、森林が土砂流出に与える影響、土砂災害減災と生態系保全、砂防の社会的評価に関するもので、原則として学会等に未発表のものに限り、

#### 3 . 発表方法

企画セッション・テーマ別セッションおよび一般口頭発表は、パソコン接続のプロジェクターのみで行います。

発表者は、USB メモリーか CD にファイルを格納して持参して下さい。パソコンを持ち込まれても構いません。OHP およびスライドは使用できません。パソコンの OS は Windows XP、ソフトは Power Point 2003 です。発表前にパソコン等で動作確認をしておいて下さい。

#### 4. 企画セッション・テーマ別セッション

平成 23 年度研究発表会では、一般口頭発表並びにポスターセッションの他に、以下に示す 1 課題の企画セッションと 3 課題のテーマ別セッションを設定いたします。

##### 企画セッション

#### 「気候変化が土砂災害に及ぼす影響」 砂防学会の公募研究委員会の成果より

近年、風水害の激甚化が懸念されており、その原因として地球温暖化等気候変化の影響も指摘されている。その実態については現在のところ明確に分析がなされているわけではないものの、気候変化は、土砂災害の発生形態や規模等にも影響を与えることが考えられ、その対応には既往の手法の大きな見直しが必要と求められる可能性がある。平成 21 年度に砂防学会研究開発部会に「気候変化が土砂災害に及ぼす影響に関する研究委員会（委員長：藤田正治 京都大学防災研究所教授）が設置されて、平成 22 年度まで研究が行われている。この委員会では気候変化と土砂災害の発生に関する基本情報の整理を行い、レビュー的研究を行うことで、研究の方向性を提示することを目指している。この委員会による研究成果の報告と議論を行う。

##### テーマ別セッション

#### 1) 観光地と治山・砂防

近年、国の施策として観光立国が推し進められているが、わが国を代表する観光地は、山地・丘陵地や火山活動の盛んな温泉地に多く、その近傍では土砂災害の危険箇所が多く分布している場合がある。「観光」は「安全」が確保されて初めて成り立つものであり、地域住民や観光客の安全を守るとともに、貴重な観光資源、観光施設等を守る治山・砂防事業は、観光振興にとって非常に重要な事業である。そこで本セッションでは、治山・砂防事業が観光地の景観保全や安全確保等にどのように寄与してきたのかを踏まえながら、今後観光施策を進めるにあたり、治山・砂防事業の効果を科学的に説明し得るのか、観光振興のために治山・砂防事業区域を学術的にも貴重な野外博物館などとしてどのように活用し得るのか議論する。

#### 2) 最近の流域調査手法

渓流や水系における砂防計画の立案にあたっては、土砂生産・流送の実態を定量的に把握することが求められ

る。また、計画の立案にあわせて砂防施設等の効果や老朽化の状況などの調査も行われている。現地調査に用いる計測機器の軽量化・低コスト化、リモートセンシング技術の高度化などにより、流域調査の方法も先進的な方法が採用されるようになってきた。このセッションでは、このような先進的な調査手法の適用性についての議論にあわせ、取得されたデータの蓄積・データベース化による長期的な土砂動態の把握に向けての課題についても議論する。

#### 3) シカの食害による林床植生の衰退が流域の水と土に与える影響

最近、全国的に山地部においてシカの分布域が拡大するとともに生息数が急増している。これに伴い、シカの採食により森林の林床植生が衰退し森林の生態系に大きな影響を与えているとともに、森林の重要な機能である水源涵養機能や土砂流出防止機能にも大きな影響を与えている。例えば、土壌侵食量の増大により渓流への土砂流出が増大し、下流の取水施設に被害を与えている事例も発生している。このセッションではシカの食害により林床植生が衰退した流域において実施されてきた現地観測結果を基に、林床植生・堆積リターの変化が流域の水循環・水質や土壌侵食・渓流への土砂流出に与える影響を明らかにするとともに、それらの影響の予測手法、さらに対策手法についても議論する。

#### 5. 発表申し込み

本大会の発表申し込みは、平成 22 年度長野大会と同様に、すべて原稿投稿システムによりオンラインで受け付けます。電子メールやはがきによる申し込みは受け付けませんので、ご注意下さい。発表申し込みの締め切りは、平成 23 年 2 月 18 日(金)とさせていただきます。申し込み方法の詳細は、「砂防学会誌」第 63 巻 5 号（平成 23 年 1 月 15 日発行予定）に掲載の予定です。

#### 6. 概要集掲載原稿の投稿

概要集掲載原稿の投稿も、すべて原稿投稿システムによりオンラインで受け付けます。下記の原稿作成要領に従って原稿を作成し、PDF 型式（2 MB 以下）に変換して投稿して下さい。ポスターセッションによる発表についても概要集掲載が必要です。提出期限は、平成 23 年 4 月 8 日(金)（厳守）です。提出期限以降は受け付けられませんので、期限厳守をお願いいたします。

#### 7. 研究発表要領に関する問い合わせ

「神奈川大会」実行委員会事務局

〒231 8588 横浜市中区日本大通 1

神奈川県県土整備局河川下水道部砂防海岸課内

TEL : 045 210 6511 (直通) FAX : 045 210 8955

### Ⅲ．砂防学会研究発表会概要集原稿作成要領

「神奈川大会」では完成原稿はPDF入稿とします。ミスプリント防止のために、PDFファイルの原稿をそのまま縮写（95%）し、印刷の上、概要集を作成しますので、以下の諸点に留意のうえ鮮明な原稿を提出願います。

#### 1．原稿書体

原稿は原則として、ワープロ打ちもしくはタイプライター打ちとして下さい。

#### 2．原稿用紙および文字のサイズ

A4版用紙を用い、余白として、上15mm、下25mm、左20mm、右10mmを確保して下さい。なお、プリンタの都合によっては上下の余白の和が40mm程度、左右の余白の和が30mm程度であれば良いものとします。これにより、原稿が横180mm、縦257mmの範囲内に収まるように作成して下さい。1行の文字数及び1ページの行数は自由とします。ただし、文字のサイズは10ポイント（14級）以上とします。

#### 3．原稿枚数

2枚とします。1枚あるいは3枚以上は受け付けません。

#### 4．題名および氏名

題名は第1行目の中央に書き、1行あけて所属、発表者名（連名の場合は発表者の先頭に印を付ける）を右側に寄せて書いて下さい。題名は本文よりやや大きめに書いて下さい。1行あけて本文を書き始めて下さい。

#### 5．使用する文字

使用する文字、仮名遣いは、原則として「常用漢字表」、  
「現代仮名遣い」に従って書いて下さい。

#### 6．改行

改行した場合の次の行は、必ず1字あけて書き始めて下さい。

#### 7．文字の割付

句読点、（ ）、：、引用記号および1桁のアラビア数字には1マスをあて、アルファベットおよび2桁以上のアラビア数字には2字で1マスをあててください。

#### 8．見出し番号

本文の章、節等には次の記号を使用して下さい。

章 1, 2, 3

節 1.1, 1.2, 1.3

節以下 1.1.1, 1.1.2, 1.1.3

#### 9．参考文献

内容に関係のある参考文献を最後にあげて下さい。

#### 10．図表

図表はすべてクリアにし、原則として本文の間の所定の位置に挿入して下さい。図表等の左右に余白ができたときは、その部分にも本文を記入して下さい。

#### 11．写真

写真を使用する場合は、白黒印刷にも耐える鮮明なものとして下さい。また、図表と同様、原則として本文の所定の位置に挿入して下さい。

#### 12．原稿のPDF化と取扱い

完成した原稿は、PDF化ソフト（例えばAdobe社 Acrobat等）を用いてPDFファイルにしてください。原稿にはページ番号を入れないで下さい。

なお、PDF化された原稿からそのまま概要集を作成しますので、不鮮明なものについては再提出をお願いすることがあります。ご了承下さい。